

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102733
法人名	有限会社 プランニングフォー
事業所名	古都の家 学園前
所在地	奈良市二名東町3750-2 (電話)0742-40-1315
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内待原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成19年6月21日

【情報提供票より】(H19年 6月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16年 9月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	8 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 12

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥村医院・西奈良中央病院・高の原中央病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして張りのある生活、人生を築きます」の理念を掲げ、グループホームと地域が連携し、サービスの向上に努めている。日々のカンファレンスや申し送りで話し合い、職員間で理念を共有し実践している。運営推進会議に参加し、地域包括支援センター、自治会等の勉強会、地域活動に参加している。グループホーム内では、利用者のその人らしい生活を支え、個々の意思を尊重したケアを行うことで、日々の生活を穏やかに過ごされている。散歩や買い物、レクリエーション等、利用者のニーズを聞いて生活の中に取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題が4点あげられていた。介護計画の内容に応じた期間設定、歯磨き等の口腔ケアへの取り組み、市町村との関わりについては改善されていた。ただ一点、利用者のスペースとしての庭と、駐車場が分離していない点を、再度検討されることが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で評価を行い、1年間の反省やよい点の再確認ができています。利用者のニーズの変化や、介護への取り組み等、具体的に改善できています。認知症ケアについて、全国認知症グループホーム協会等で研究発表し、職員の意欲を引き出すことにつながっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議での地域・自治会等の支援のあり方を知り、子供会のバーベキューの参加や地域活動に生かし実践している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に、生活状況や健康状態を伝えている。家族が不満を言えるように雰囲気作りをしている。又レクリエーション等の様子は、広報誌、ビデオ上映などで伝えるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、毎月の例会にも参加し、情報交換している。自治会のレクリエーション、行事に参加し、合同のイベントも行っている。又、要請があれば、認知症についての話を地域に出向いて行っている。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして張りのある生活、人生を築きます」の理念を掲げ、ホーム、地域で自立した生活ができるよう全職員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク	認知症高齢者のグループホームに関する法令を理解し、理念や方針を日々のカンファレンスや申し送りで話し合い、職員間で共有し実施している。	○	認知症ケアについて、全国グループホーム協会と連携して研究発表を行い、職員の働く意欲につながっている。今後も認知症ケアの実践や研究に取り組んでいられることが期待される。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、毎月の例会に参加している。また、自治会主催のレクリエーションに参加したり、ホーム内の庭を使い、バーベキューやゲーム等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全体で話し合い行っている。評価を行うことで、職員間で反省やよい点を確認し、介護に生かしている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加し、地域包括支援センター・自治会・家族の意見を聞き、勉強会を実施している。地域活動に参加して、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者から事業所の運営に関する意見等を聞き、サービスの質の向上に努めている。また、講演の依頼があれば協力できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に生活状況や健康状態を伝えている。又、月間報告書や介護計画書を郵送している。広報誌の発行、ビデオ上映等でも利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽に声かけし、意見や不満を言えるようにしている。苦情受付窓口を重要事項説明書に記載し、説明している。家族からの意見や苦情は記録し、話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率はよく、意欲を持って介護されている。ユニット間での異動もゆとりをもって行い、利用者にダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市・全国グループホーム学会・認知症ケア学会・地域包括支援センター等の研修会や勉強会に参加している。参加できない職員には、報告会や文書で伝えるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外のグループホームの交流会・地域包括支援センター主催の西部ネットワーク会や病院との交流会を行っている。又、グループホーム間の職員の交流もあり、学んだことをサービスの質の向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 利用者の概要 (6月 1日現在)					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と相談し、サービスを利用するために、ホーム内の見学やおやつ作りや食事を共にするなどして、雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を生かし、食事の手伝い、洗濯物干し等、職員と共に楽しみながら行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切にし、イベントのニーズや好みの家具等を話し合っている。食べ物では好物を尋ねたり、希望を聞いて遠足に行ったり、一泊レクリエーション等も行っている。	○	全員のニーズを取り入れるのは大変難しいが、できるだけ利用者の思いや意向を汲み取り対応していかれることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	これまでの生活歴や現在の状況から、本人・家族・職員で話し合い作成している。その人らしい生活ができるように、本人の意見やニーズを取り入れ、家族とも相談しながら介護計画に反映している。又、日頃の生活の中で行動や表情等、非言語的なニーズも読み取り対応されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは行われている。カードックスを使って、利用者の状態が把握できるように工夫されていて、変化が生じた場合も柔軟に対応している。	○	急な変化があった時の介護計画の見直しが遅れる場合があるので、職員間でミニカンファレンスを密にして、より速い対応を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援、入院した場合には早期退院に向けて支援する等、利用者の状況に応じ、安心できる生活を担保する取り組みをしている。	○	デイサービスやショートステイの事業を計画中のようなので、将来地域に根ざした幅広いサービスを提供していただきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回往診してもらえるかかりつけ医があり、職員が間に入って、円滑な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族等とかかりつけ医、看護師(訪問看護)とが、重度化した場合、終末期をどのように迎えるかについて十分話し合い同意した上でサインをもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書にプライバシーの確保について記載されており、個人情報の管理に気を配っている。職員は利用者へ適切なことばで声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、一日の予定を画一的に決められることなく暮らしている。職員は多忙であるが、その対応はゆったりしていて、利用者のくつろいだ表情が多く見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の可能な限り、職員と共に盛り付けや後片付けを行っている。食事中も楽しい会話が交わされている。介助のいる人には、職員が話しかけながら、ゆっくり食べてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、基本的に昼間に入浴をしている。一名ずつ本人のペースで、必ず職員が付き添って入っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や料理等、得意なことを職員と会話を楽しみながら行っている。リーダーシップを取る仕事をしてきた人には、挨拶をする機会を持ってもらう等の配慮がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日のスケジュールは決められていないので、その日の天候や、利用者の要望により散歩等の外出支援をしている。又、車で買物や外食等にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全の為にセンサーが付いているが、日中玄関に鍵はかかっている。利用者が外に出る気配のある時には、職員が付いて行き見守っている。又、自治会に加入して地域の理解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、災害訓練を年2回行っている。地域の協力が得られるよう、自治会に依頼し了解を得ている。	○	スプリンクラーや、通報装置の設置が義務付けられるようになるので、設備を整えた上で、確実な避難誘導ができるように話し合い、利用者と共に定期的な訓練を行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスを配慮した献立表に基づき調理している。水分量はチェック表を作成し、個別に管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な雰囲気、不快な音や光はない。静かな環境であるが、たまに隣接する小学校から子供の声が聞こえて来ることがある。	○	庭は駐車場にも使用しているが、庭を活用した屋外の共用空間を充実させることが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、その人らしさが感じられる。ベッド、ふとんも自由に選択できるようになっている。		